

No.1890

11月17日例会 プログラム 「キリマンジャロ」 林 実君

11月24日例会 プログラム 「内視鏡的消化管止血術の実際」 大西 正高君

11月17日のメニュー ・船場鍋(サバ、冬野菜) ・お刺身 ・牛肉とゴボウの柳川 ・ナンパン漬け ・五穀米 ・コーヒー

前回(11月10日)例会記録

出席報告	会員総数	40名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	27名	欠席者数	11名	出席率	71.05%	前回補正率	86.84%
	前回補正者	藤田君 福森君 松王君 三谷君 三宅(照)君 難波君 大久保君								
	欠席者	藤原君 福森君 花岡君 石川君 井上君 三谷君 仲田君 中山君 難波君 大久保君 山田(次)君								

会長挨拶

こんにちは。例会出席ありがとうございます。先週は、例会がお休みでしたので、2週間ぶりです。10月28、29日の地区大会出席ご苦労様でした。その中で、28日に講演された鳥取大学学長の能勢隆之さんの演題「社会変動を視野に入れた教育」というお話の中で、大学も独立行政法人になり1番に改革しなければいけないのは大学の教授であるというお話がありました。何十年も変わらなかった組織を変えようとするのは大変だということでした。29日のRI会長代理 藤川京胤氏のお話は内容的には、現在のロータリー会員数は世界的に見ても減少しているが、その中でも女性会員の数は増加している、また第2630地区においては日本初の女性ガバナーが誕生するという話がありました。他にロータリーの未来について等々お話がありましたが、私が特に感心したのは、その話し方、間の取り方でした。声のトーンは少し落し、間は長くも短くもなく、具体的には小説家池波正太郎の剣客商売のストーリーのような、ゆったりと話が進んでいくような感じの話し方に感心しました。私も参考にしてゆったりと話したつもりですが、どうだったでしょうか。以上、会長挨拶といたします。

会長報告

- ・白石前ガバナー補佐に感謝状が届いております。
- ・地区大会ゴルフコンペでの飛び賞が藤田さん、緋田さんに届いております。
- ・本日例会終了後、理事役員会を行います。理事役員の方はお残り下さい。

幹事報告

- ・新宮ガバナー事務所より先般米子で開催されました地区大会への参加に対するお礼状が届いております。
- ・新宮ガバナー事務所より「ロータリー財団地区セミナープログラム (Zone1,2,3,4A) 開催の案内が届いております。11月23日(木)岡山ホテルグランヴィアにて。
- ・新宮ガバナー事務所より10月29日開催されました地区大会での藤川RI会長代理の講演の映像DVD販売の案内が来ております。
- ・新宮ガバナー事務所より2007-8年度ガバナーノミネー(9-10年度ガバナー)候補者の推薦依頼が届いております。
- ・たまの人形劇フェスティバル実行委員会より「第17回たまの人形劇フェスティバル」開催の案内と招待券が届いております。12月3日(日)午前10時-11時半、玉野レクレーションにて。
- ・森下ガバナーエレクト事務所より次年度地区運営計画のために活動計画書等の提出依頼が来ております。11月13日まで。
- ・岡山シーガルズを応援する会より岡山女子バレーボールチーム「岡山シーガルズ」の会員入会のお願いが届いております。
- ・他クラブの週報・例会変更通知は回覧いたします。

委員会報告

- ・親睦・家族委員会(高橋(秀)委員長):
 - <誕生日祝>:三宅(孝)君4日、高橋(征)君11日、難波君20日、槌田君21日
 - <結婚記念日祝>:富永君9日、小野君10日、宮原君21日、高橋(征)君25日
 - <忘年例会のお知らせ>:12月8日(金)19:00 ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル
- ・インターネット委員会(三宅(一)委員長):玉野RCホームページ掲示板の文書を削除・編集する方法について説明。

スマイル・ボックス

- ・三宅(照)君 - 職人塾が11月1日に開校しました。 本日早退。
- ・三宅(保)君 - 本日卓話をします。
- ・渡邊君 - 福森さん、地区大会ありがとうございました。 東川さん、地区大会ありがとうございました
- ・山田(孝)君 - 地区大会で松尾会員、東川会員にお世話になりました。
- ・松尾君 - 4クラブチャリティゴルフで2位になりました。
- ・藤田君 - 地区大会ゴルフで飛び賞をいただきました。
- ・富永君 - 大山平原ミニハイロー会で優勝。 結婚記念月。
- ・槌田君 - 誕生月。 バッジ忘れ。
- ・三宅(孝)君 - 誕生月。
- ・宮原君 - 結婚月他。
- ・高橋(征)君 - 誕生月。 結婚記念月。 ・小野君 - 本日早退。

プログラム 「ロータリー財団月間に因んで」 三宅 保昭委員長

11月はロータリー財団月間です。今日のロータリーを考える時、ロータリー財団を抜きにしては考えられないほど重要な役割を果たしております。ロータリーが多くの人に知られるようになったのも、国際奉仕プロジェクトや各種の助成金、特にポリオプラスなど殆どが財団の資金によって賄われているからです。ロータリー財団が地域社会や国際社会への奉仕活動の強化、拡大を強く求められている時、財団に対する知識と理解を深め、財団支援への熱意の涵養に努め、かつ行動するのがこの月間です。ここではロータリー財団の生い立ちと活動内容の一端について述べてみます。

ロータリー財団は1917年アメリカのアトランタで開催された国際大会で、一人の会員が「ロータリーが基金を創り、世界的な規模で慈善、教育、社会奉仕の分野で何か良い事をしよう」と提案して採択され、永年の夢が実を結んだのが始まりです。シカゴでロータリーが誕生して12年後のことでした。提案したのは後にRI会長を務めたアーチ・C・クランプという人です。

現在、世界理解と平和を築く活動にとって妨げになっている貧困、飢餓、疾病、非識字等、多くの人々が抱えている生活の苦難に打ち勝つ手助けをして、人道的に大きな貢献をし、世界中から信頼と尊敬の念を集め、ロータリアンの誇りともなっているロータリー財団は、初めから順風満帆であったかということ、そうではなかったようです。アーチ・クランプは人気も高く尊敬された指導者であり、ロータリーの基金が新しいクラブの設立や人道的支援に役立つという彼の提案は好意的に受け止められていたものの、最初の寄付は1917年ミズリー州カンザスシティロータリークラブからの26ドル50セントで、以後数年はクランプの努力にも拘らず成果が少なく、1923年になっても残高はやっと700ドルになったという状況でした。産みの苦しみを味わい続けたこの基金も1928年に総額が5,739ドルに達し、基金による事業開始の時が来たとして、ミネアポリス国際大会で名称をロータリー財団と改め、国際ロータリーの定款、細則も改定され、新しい管理委員会の元に強力な体制が整ったのです。1929年アメリカでは、株価の暴落により様々な慈善活動の寄附金が枯渇するようになりました。ポール・ハリスがロータリー財団に最初の拠出を要請したのはこの時です。財団はオハイオ州エリリアのロータリアン、エドガー・F・「ダディー」・アレンの発案で1919年から活動を開始している国際障害児協会のために500ドルの小切手を送りました。財団が人道支援を行った最初の拠出です。

ロータリー財団発展の礎となったのは、ロータリーの創始者ポール・ハリスの死でした。1947年1月、ポール・ハリスがイリノイ州の自宅で亡くなると、700カ国以上30万人を越えるロータリアンが創始者の死を悼み、偉大な業績に敬意を表して、国際ロータリーに相次いで基金が寄せられるようになり、財団はポール・ハリス記念基金を設け、ポール・ハリスに敬意を表したいロータリアンに対し、財団強化のために寄付するよう呼びかけました。その反響は凄まじく、翌年7月までに米貨130万ドル以上が寄付され、永年の目標であった200万ドルが射程内となり、財団の転換点となったのです。また、この年最初の財団プログラムが実現しました。それは高等研究奨学金と呼ばれるもので、アメリカ、ベルギー、イギリス、フランス、メキシコ、中国から18人の若者が選ばれ、最初の国際親善奨学生が誕生したのです。苦難の道を歩んだロータリー財団もこうして漸く花が咲き実を結ぶ時が訪れて、今では世界中から期待が寄せられ、かつ賞賛される成果を重ねながら歴史を作り続けており、悲願であるポリオのない世界の実現も目前のものとなりました。

アーチ・クランプは「ロータリー財団の活動が、これほどまでに効果的なのは、資金と活動する人とを上手に組み合わせるからだ。金だけでは大したことは出来ない、個人の奉仕は金がなければ無力である。この二つが組み合わせられれば文明への天の恵みとなることが出来る」と述べています。

地球から争いをなくし、全ての人々が豊かで平和な社会を築くために、ロータリー財団が更なる貢献をしていく上で重要なことは奉仕活動の充実と資金面の援助です。財団は教育的プログラムや人道的補助金プログラムによって、多大な寄与をしています。近年は特に同額補助金の申込が増加していますが、これは国際的な人道的プログラムですから、この増加は奉仕活動費の需要増加となり、資金不足とならぬような対策が必要となります。まさに奉仕活動と資金調達は車の両輪です。

2001年、規定審議会は「総ての会員が100ドルの年次寄付をする」という目標を決議し、さらに2004年には「毎年あなたも100ドルを」を標語にして、この推進計画の支持を決定しました。世界は豊かな国ばかりではありません。日本は一人135ドルを最低目標として、寄附金を必達するよう会員に要請しています。これは会員の義務とみなさねばならぬのではないのでしょうか。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。